



掲示版
こ〜じのう

発行所(社福)千葉県身体障害者福祉事業団
千葉県千葉リハビリテーションセンター
発行責任者 高次脳機能障害
相談支援体制連携調整委員会
委員長 吉永 勝訓
〒266-0005 千葉市緑区誉田町 1-45-2
TEL 043-291-1831 (代)内177
発行日 2008年11月17日

も く じ

掲示版 第 6 号

巻 頭	はじめまして	1
報 告	全国の動き	2 ~ 4
報 告	外部団体の活動・プロジェクト班	4 ~ 6
	太一のこころ日向子の思いやり	7
	交換会・千葉懇話会	8
	まめ知識コーナー	9
	書籍紹介【2】	9
	インフォメーション	10
	編集後記	10

は じ め ま し て

高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会

委員 加藤 直子

千葉リハビリテーションセンター神経内科

平成13年より当センターのリハビリテーション科の医師として多くの高次脳機能障害の患者様を担当してきました。今回はその経験からお話させていただきます。

高次脳機能障害となった原因疾患が違っても脳機能の回復に大きな差が出る原因として、病識の低下と言語機能障害を強く感じていきます。自分のどこに問題があるのかを全く理解をしていないとリハビリを行なってもリハビリの効果が得られにくく、無理やりリハビリをやらせられているという感情が積もるばかりです。また一見日常会話に大きな支障がない軽度の言語機能障害がある方でも課題をこなしていくのにより多くの時間がかかっていきます。時間経過とともに症状が自然軽快することもありますが、病識の低下と言語機能障害が根強く残る方の回復度はそれがない方に比べ非常に緩徐です。病識が低下しているゆえに「早く仕事場や学校に戻る」「早く車の運転をしたい」などと訴え、早期に職場・学校復帰を来し、そこで思うように自分が行動できない、または周囲から評価されないゆえに問題となるケースが少なからず見られます。障害を認識できていない方を家族や周囲のスタッフでいかに時間をかけてどのように社会復帰させるかが今後の一番の課題になるかと思っております。

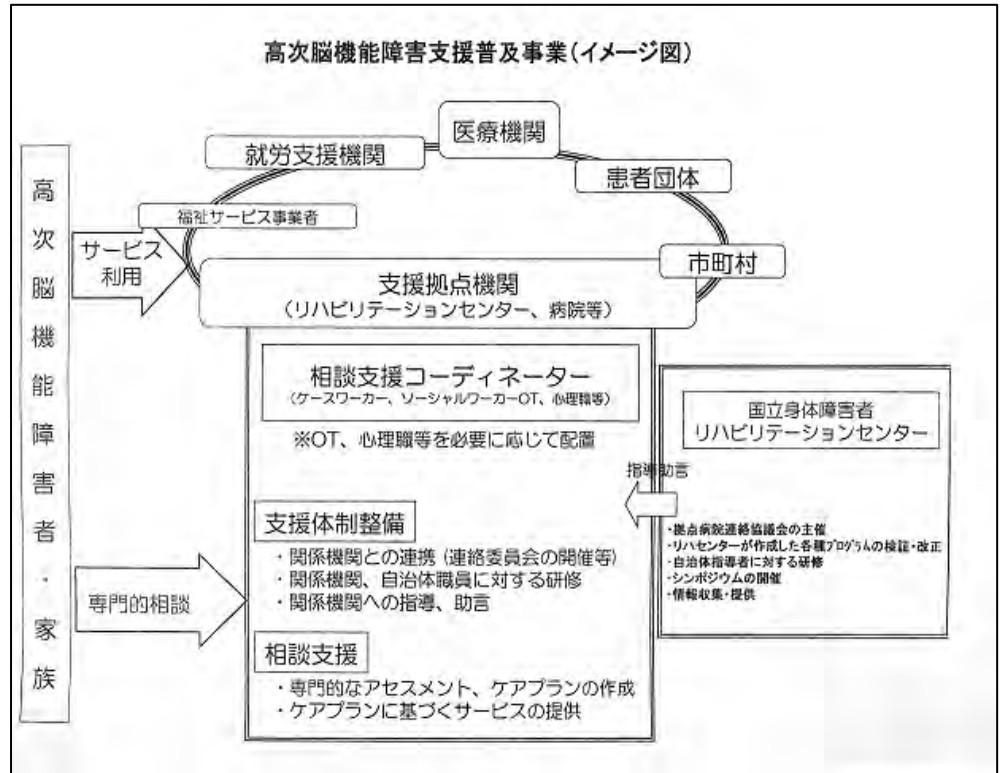


全国の
動き

■第一回全国連絡協議会報告

千葉県千葉リハビリテーションセンター
地域連携部 太田 令子(支援コーディネーター)

平成 20 年度第 1 回全国連絡協議会が7月2日、国リハで開催されました。厚生科学研究費「高次脳機能障害者に対する支援ネットワークの構築に関する研究(H18 - ころ - 一般 - 008)」平成 20 年度第 1 回全体会議との合同会議でした。
内容的には各ブロック主催県から各県の実施状況について報告がありました。当日配られた資料から、高次脳機能障害に支援普及事業(イメージ図)に関して再掲させていただきます。



この席上で中島主任研究員から診断基準に於ける除外項目の発達障害に関する部分に関して、なお書きをつけることが図られました。

具体的には、診断基準の記載後「なお、診断基準の と を満たす一方で、 の検査所見で脳の器質的病変の存在を明らかにできない症例については、慎重な評価により高次脳機能障害者として診断されることがあり得る。

発達障害者支援法で定める発達障害者(児)のうち、外傷性脳損傷や脳血管障害などの後遺症により、診断基準の と を満たす者は高次脳機能障害者として認める。」の下線部分を付け足すことに関する意見です。

最近国リハから各分担研究者の回答結果が送られてきましたので、掲載致します。

回答総数 12

- | | |
|-----------------------------------|------|
| 1. この一文をこのまま或いは字句の訂正の後に、なお書きに入れる。 | 11 名 |
| 2. なお書きではなく、別途の方法で解説を試みるべき。 | 0 名 |
| 3. これまで通りの診断基準となお書きで良く、改定の必要はない。 | 1 名 |

平成20年度「高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの構築に関する研究」 関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議 報告

日時 平成20年7月30日(水)午後2時～4時30分

場所 大宮ソニックスシティ603会議室ソニックスシティビル6階
さいたま市大宮区桜木町1-7-5

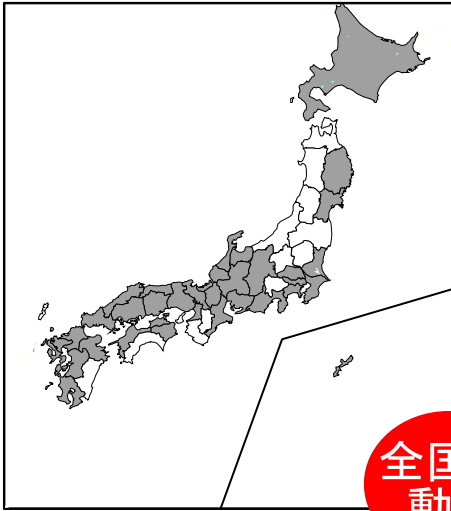
参加者 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県、長野県、山梨県の関東甲信越ブロックと東京ブロックの事業実施担当者および各県の当事者・家族の会の方々です。

議題 高次脳機能障害者に対する地域支援ネットワークの現状と今後の展開(講演)講師 国立身体障害者リハビリテーションセンター 学院長 中島 八十一様

平成19年12月25日に障害者施策推進本部重点施策実施5か年計画(平成20～24年度)で保健・医療分野において高次脳機能障害の支援拠点機関の設置等に関する決定がなされたこと。その中で数値目標として平成24年度までに全都道府県に支援拠点機関を設置し、国立専門機関等において高次脳機能障害のための認知リハビリテーション技法の確立や評価尺度の開発推進および都道府県単位の支援ネットワークに対する専門的な支援を行い、その支援技術の向上を図るといふものです。

現在35都道府県で高次脳機能障害支援拠点機関が設置されていることも報告されました。福岡県および東京都の実態調査についても報告されました。福岡県(実数調査)対象年齢9～65歳の途中経過から推計して、全国で毎年3,072～3,840人の新規発症者が推計され、全国でリハ支援が必要な高次脳機能障害者数は86,400～103,680人と推計されているとのことです。

東京都調査については、後半の東京都からの報告に譲ります。



全国の動き

(1) 東京都における実態調査報告

東京都では、平成11年に実態調査を実施していますが、当時の対象年齢は18～64歳とし発症後3ヶ月以上の症状が固定したと思われる人たちについて251機関からの回答を基に分析しました。今回は年齢制限無く、通院患者調査(419/651病院、194/287診療所)入院患者調査(精神科病床を有する81/113病院)退院患者調査(419/651病院)および本人調査(198/938人)。2週間の退院患者調査から、東京都の高次脳機能障害者数は6,508人と推計されます。精神科病床入院者の91%が行動と感情の障害を、80%が遂行機能障害を、77.8%が記憶障害を、75.3%が注意障害を有していました。

(2) 各県の事業進捗状況及び当事者・家族会等の活動状況
各県によって、本事業への取り組み状況はまちまちです。モデル事業以前から、高次脳機能障害者への支援を焦点化して取り組んでこられている神奈川県や東京都もあれば、モデル事業で初めて本格的に事業展開を始めた千葉県のようなところもありますし、まだ拠点機関が決められないでいるけれど、行政レベルで県内の実態調査や支援体制整備検討委員会の開催などを始めようとしている栃木県や山梨県といったところもあります。各県それぞれの悩みや課題が出され、そんな状況の中工夫をしながら高次脳機能障害者への支援を進めていっておいででした。

情報交換としての提案議題等

各県の高次脳機能障害支援拠点機関の現状について(千葉県)
提案理由:各県で拠点機関の形態はさまざまである。既に事業実施している県の場合は現状およびその利点と欠点(課題)が出されることで他の県の参考になる。また未実施の県の状況を聞くことで、何が問題となっているかが解りやすくなる。今後支援拠点機関のありようは画一的なものではないと考えるが、他県の良いところは吸収していきたいと考える。

各県の支援および取り組み状況の情報収集。とくに実態調査に関するもの(山梨)
提案理由:今年度 高次脳機能障害者実態調査 支援体制資源調査 当事者・家族ニーズ調査を行う予定。実施に際し、特に調査項目に関して既に調査実施した県からアドバイスをいただきたい。

本田幸子支援コーディネーター





第一回高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会報告

日時 平成20年6月23日(月)

場所 千葉リハビリテーションセンター

出席者 連携調整委員会委員 12名(外部委員8名・センター内部委員4名)

議題 1. 副委員長選出

2. 平成19年度事業報告について(千葉リハビリテーションセンターホームページをご覧ください)
3. 平成20年度千葉県高次脳機能障害支援普及事業概要
4. その他: ちば高次脳機能障害者と家族の会からの要望

全国の動き

調整委員会の様子



ハイリハ千葉、高次脳機能障害者の会

「ハイリハちば」は、高次脳機能障害者もつた若者とその家族、ボランティアスタッフ、学生ボランティアが集まり、楽しみながら交流できる場をもっています。活動プログラムは当事者からの希望で決定し、ご家族やスタッフが協力をし、プログラムを実施しています。

10月の定例会は、「リサイクル鍋式作り&バラ園散策」といった内容で開催しました。鍋式作りは、当事者のお母様に講師になっていただき、広告をリサイクルした鍋式作りに挑戦しました。ほとんどの参加者が、鍋式作り初体験という中で、困惑した表情もちらほら見られましたが、作業を分担して助け合ったり、最後にグループ全員で一つの鍋式を作り上げたりと、満足いくものができました。鍋式作りで、脳に適度な疲労を与えた後は、気分転換も兼ね、近くの谷津バラ園にバラ鑑賞に出かけました。バラ園の中を散策しながら、近況報告をしたり、写真を撮りあったりと楽しいひと時を過ごしました。

今年度はあと2回、12月、2月に定例会を予定しています。冬は屋内の活動は主ですが、春にはバーベキュー、夏にはカキ氷なども行っています。

活動日時 偶数月の第3日曜日 13時~16時
活動場所 主に習志野市谷津公民館、もしくは屋外活動先

活動記録や次回のお知らせなどを載せていますので、ホームページもご覧ください。

<http://www.geociti.es.jp/hairi-hachi-ba/>

《問合せ先》君津中央病院言語療法室

0438-36-1071

もしくは、千葉リハ心理大塚・相談室土屋まで

地域連携部 土屋

ハイリハキッズ、脳損傷の子どもを持つ家族の会

ハイリハキッズは、2007年1月に発足した高次脳機能障害の子どもを持つ家族の会です。参加者は東京・千葉在住の方がほとんどですが、どちらにお住まいの方でも参加することができます。

活動は、医療機関(病院やリハビリテーション施設)やボランティアの方々の支援を得て、2カ月に1回江戸川区周辺の公民館等で定例会を開き、家族間の情報交換や子ども同士の交流を行っています。

内容は、ちよつと珍しいかもしませんが、親子が分かれて活動しています。親グループは近況報告や普段疑問に思ったり悩んだりしていることを語り合い、それぞれの家族の試みや対策を聞く中で励まされたり勇気づけられたりしています。通常の生活の中ではなかなか話せない思いを、同じ体験をしているからこそ口にする事ができる貴重な場となっています。

一方、子どもグループは別室でボランティアの方々と一緒にゲームや手品をしたり、時には簡単なケーキを作ったりしています。その成果を会の最後に親に披露するときの様子を見ると、自分のことを理解し受け入れてくれる方々の中で、とても楽しい一時を過ごしているのだなと感じられ嬉しく思います。

これまでは、辛いこと・苦しいことを語り合うことによってお互いの悩みを理解し慰められ癒されるような場所でありましたが、このままでは何の問題解決にもなりません。高次脳機能障害は、身体障害に比べると周りから見えにくい障害であるが故に学校や地域の理解を得ることが容易ではないため、その都度親たちは単独で対応しなければなりません。今後は、子どもが安心して暮らしていけるような環境を整えるためにも、支援スタッフや専門の先生方から福祉・教育・行政等々の問題に向けて前向きに活動していきたいと考えています。

ハイリハキッズ会員





高次脳機能障害者支援マニュアル作成プロジェクト

高次脳機能障害者支援マニュアル作成プロジェクトに参加して、わたしは今まで、わが子ひとりの障害問題に、毎日あくせくしていました。これから先、どう進むべきか、その道しるべを、あらためて深く考えるきっかけを、頂いたと思います。

担当した施設は東葛南部地域です。調査に訪れた施設の事業に、携わっている方の多くは、「この子らの為に、何とかして上げたい」という、あつい思いが原動力となり、一日、一日を精一杯、頑張っておられます。その思いは、世話をされるかたも、していただく方も、通じ合い調和となり、信頼となつていようと思えました。

おそらく、他の地域を担当された方々も、思いの丈に驚き、努力されている姿に、感動された事と思います。何かあつい思いと成つたのでしょうか？ある施設長は、定年退職してから、「まだ働ける。何か人の為に働きたい」と思いました。

そして今までのキャリアをいかして、障害を持つている人の手助けがしたいとボランティアから始められました。障害者と向き合っているうちに、障害者と共に働くサポート集団を作り、働く場を運営してこられました。その結果グループホームと輪が広がっていきました。障害者とかかわるうちに、何とかして道を開いてあげたいと、奔走している事が、障害者の自立を支える施設事業になつたのでしょうか。障害を持つている子の親は、「親が生きている間に、何とか自立をさせて上げたい。」と祈り、願い、あせります。

作成中!!



施設訪問調査中の様子

平成 18 年度に作成したパンフレットでは、診断評価可能な医療機関の情報を掲載しました。このたび、第二弾のパンフレット作成にあたり、社会参加に関する情報を載せたものを作成することとし、そのためにアンケート調査及び訪問調査を実施しています。



パンフレット作成委員会の様子

このプロジェクトに参加して、あらためて障害者の自立支援とはなんなのかを考えさせられました。個々に障害の形は違つていても、自分は何がしたいのか、どんな支援が必要なのかを、考えています。自分の暮らす町に、高次脳機能障害者を受け入れる施設がなくても、そのことにこだわらず、周りを見て、自立の道を探していく事です。そんな時にこのプロジェクトで知り得た情報が役立つ事になると思います。支援とは終わりのない道です。これで良いと云う事ではなく、多岐に広がるニーズとサポート、まだまだ道はけわしく、この不況の中、持つていける力が問われる事と思えます。

見学した施設も、日々努力を重ねておられます。引き籠もりがちな高次脳の方も、このプロジェクトで調査した情報を、利用していただき、自立の道を行んでくださり、活かされたらと、切に願っております。

今回、千葉リハのマニュアル作成に参加したことを、感謝いたします。
金子 光子 【当事者家族】

就労支援プロジェクト班報告

当プロジェクトでは、地域の働く場と具体的な連携を実践しています。本号では、その現場から実際の様子を報告していただきました。

「得意なことを生かして働いていただくために」

今年四月、千葉リハビリテーションセンター更生園から二名の高次脳機能障害の方を迎えました。レストランのコックさんだったAさんは、就労継続A型事業所で二回の実習を行いました。お弁当の製造・販売をしています。実習期間中、Aさんは得意なパスタを入れたお弁当を作ってくださいました。目先の変わったアイデア弁当は市役所で販売し売れ行き上場でした。Aさんの照れたような表情は周りのみんなを嬉しい気持ちにしてくれました。自分の力でいくだけでも良いから収入を得たいと言つたBさんには、就労移行支援事業所で販売の仕事をやって頂きたいとお伝えしたところ、「ことばや手足に障害のある僕に販売の仕事ができませんか」と不安そうでした。彼は今、素晴らしい笑顔で接客をしています。早く職安に行つて職探しをしたいと真剣です。

出来ないことを数えるより、得意なこと、出来ることを見つけていくことの大切さや、社会の中で働くことはどんなリハビリにも勝るといふことを、視野を広げ意欲的になつたAさんやBさんが教えてくれます。

高次脳機能障害の方を受け入れることに施設としては迷いはありませんでした。しかし、昨日うっかり触ってしまった熱いやかんを今日も触ろうとするAさんが安全に働くためにどのように伝えればいいのか、できないことを何故させないのかをご本人に理解していただくのはたいへん難しいと感じています。職員一同、リハビリテーションセンターの専門的なアドバイスを受けながら、働きたいという気持ちをもつた高次脳機能障害の方をこれからも積極的に迎えたいと考えています。

オリブハウス サービス管理責任者 岸恵子

高次脳機能障害者の社会参加“ボランティアはじめの一步” - 中間報告

NPO 法人生活クラブ・ボランティア活動情報センター

宮田明子

当事者の社会参加の場の拡大と高次脳機能障害の啓発活動としてスタートした“ボランティアはじめの一步”。研修会や交流会を終え、チームでボランティア活動が進んでいます。

事業計画の概要と経緯

- 5月 サポートボランティア養成講座
高次脳機能障害とサポートボランティアの役割について学びました。
 - 6月 オリエンテーション
当事者の方とボランティア活動およびサポート内容を確認し、受け入れ施設の見学を行いました。
 - 7月 サポートボランティア&コーディネーター研修
サポート方法やその対応について個別に研修をしました。
 - 7月 ボランティア交流会
それぞれチームを組んでボランティア活動内容を確認し、交流しました。
- ボランティア活動開始
- 12月 ボランティア活動のまとめの会
12/21 予定 会場：高齢者福祉施設風の村
 - 2月 事業報告会
2/22 予定 会場：ホテルプラザ菜の花



サポートボランティア養成講座



研修会



ボランティア交流会

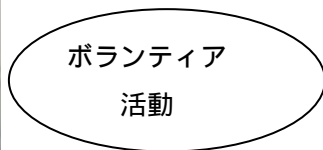


自発性、対等性、責任性を意識したコーディネーターをすることが、ボランティア活動の価値を高めると考えてします。

7月のボランティア交流会で、当事者・サポートボランティア(当事者のボランティア活動のサポート)・受入施設職員・ボランティアコーディネーター(VAIC)でチームを結成し、活動計画を確認してから4か月あまり…。チームメンバー間の信頼関係も深まり、スムーズに活動が継続しています。ボランティア活動のペースは月1回から週1回とさまざま。活動当初は緊張や不安で硬い表情でしたが、回を重ねるたびに穏やかな表情が見受けられ、家族の中だけの生活に第三者が加わることでそれぞれに変化を見せ始めています。



活動記録写真撮影



傾聴・手作り作業お手伝い



宛名書き



食器の後片付けで職員をサポート



昼食時の話相手と後片付け

高次脳機能障害相談支援センターデイナー

情報交換会・第8回脳外傷友の会全国大会

日時 平成20年10月3日(金)〜4日(土)
場所 盛岡「アイナホール」他

昨年度に続き、今年度もNPO法人日本脳外傷友の会の呼びかけにより、友の会の全国大会にあわせて支援コーディネーターの情報交換会が実施されました。

今年度は盛岡が開催地で、NPO法人いわて脳外傷友の会イーハトーブやいわてリハビリテーションセンターの方々の尽力のもと開催されました。

参加都道府県は昨年度より増え、各地域からの現状報告を中心とした情報交換会となりました。地域ごとにかかえている課題や地域性などそれぞれに違っている部分と共通している課題等を共有することによって、横のつながりを持つことができ、それぞれの質を高めることにもつながるとも大切な機会でした。実際に他で取組まれていることを教えていただき、参考にすることができることは積極的に取入れる様に取り組んでみたいと思うこともありました。こうした都道府県を越えた連携の機会は今後も継続してほしいとの声が多く、来年度も行われる方向となりました。この情報交換のあり方についても、検討しながらすすめていけるように努力したいと思っております。

全国大会は、「高次脳機能障がい者と家族の自立支援事業」へ広げよう 地域に根ざした「支え合いの輪」というテーマでした。1日目は講習会として東京慈恵医科大学の橋本圭司先生による基調講演や鼎談が行われ、その夜、交流会が盛大に行われました。講習会では、立ち見で聴講される方が出るほどにたくさんの方が参加されていました。歓迎交流会では、当事者や家族、支援者たちが一緒に楽しみながら交流をすることができました。



当地ならではのイベントが盛り込まれており、「さんさ踊り」「わんこそば大会」なども行われました。皆さんの楽しそうな表情が会場いっぱいにあふれる交流会でした。

2日目は全国大会の式典と講演、シンポジウムが行われました。活躍されている当事者の方々からのメッセージや家族会の取組み、支援者の取り組みの報告などあり参加された方々にとって参考となる大会だったと思います。参加者は1千人を超える参加だったようでした。「就労」「当事者と家族会の発展段階におけるあり方」といったテーマの情報提供もありました。会の準備等に携わられた方々、参加された全国の団体、当事者・家族の方々の方々の力のもと盛会に行われた会でした。

来年も全国大会、情報交換会が行われる予定ですので、また多くの方がたの参加のもと有意義な時間が過ごせることと思います。もちろん、我々も皆さんに有意義な情報を発信できるように努めて支援活動を展開できるようにしていきますのでよろしく願います。

第4回千葉懇話会報告

日時 20年9月16日(火)
地域連携部 森戸

今回は、医学的な診断評価に焦点を当てた発表と、地域支援点機関である旭神経内科リハビリテーション病院から事例報告を行いました。

まず、旭神経内科リハビリテーション病院から「受傷後8年経過して高次脳機能障害の診断に至った症例」の報告を行いました。この報告では、WAIS-Rによる評価は実施していたが、実際の生活場面(ある一定の単純な生活となる入院生活など)では注意や遂行機能などの問題が見落とされていた。

こうしたことから、入院中に明らかかな問題症状などがみられない頭部外傷の患者へのスクリーニングをどうするか?などの問題点が提起されました。このようなことは、多くの医療機関で抱えている課題なのではないでしょうか?

次に、当センターから「千葉リハビリセンター」での神経心理学的検査結果について「WAIS-R・WAIS」と他の検査との関係」の発表を行いました。これは、高次脳機能障害の診断のための神経心理学的検査の実施してきたデータを基に、検査を受ける当事者の方々に、複数の検査を同時期に受けることは負担が大きいため、その負担をなるべく軽減し、必要な情報を得ることのできる検査の組合せの検討について発表しました。WAIS-R・WAISの結果との相関係数や独立した因子について検討報告、また発症から間もない時期に対応する入院の方への検査のあり方と、ある一定時期を経過して受診となる外来の方への検査の進め方の検討報告もありました。引き続き、分析検討されていく課題であると思っております。

この懇話会では、今後も各医療機関や支援機関での取組みや試みを共有していける場のひとつとしていきたいと思っております。取上げたいテーマやディスカッションしたいことなどありましたら、ご意見などをお願いいたします。

所属機関別	参加人数
病院	48
就労支援	2
行政	9
その他	3
合計	62

ばわい
ちんか



地域連携部 森戸



こちらでは、障害に焦点をあてた中での生活で使える訓練をまめ知識として掲載していきます

11月に入り肌寒くなり、冬支度として衣替えの季節となりました。生活支援に携わる者として、高次脳機能障害の方は衣服調整が苦手なのでは？と感じる事があります。その日の気温に合わせた衣服調整が苦手な方は、体調を崩しがちです。朝・晩寒くなって来ているにも関わらず、半袖・短パン・素足にサンダルといった夏仕様の姿を目撃する事があります。そんな時は思わず、「今の季節は何ですか？」と季節感に見合った服装であるか考えて頂いています。御自分の服装を見ながら、「そういえば・・・。」と今着ている服に違和感を持たれます。

TV・ラジオを点けていると天気予報を観る・聴く機会が1日に何度かあります。天気予報では毎日最低・最高気温を標示しています。天気予報の情報を参考に、その日の気温に合わせた服装を心掛けられれば、体調を崩す事も減るのではないかと思います。

季節に合わせた服装を心掛けるアイディアの一つとして、シヨッピング・買い物に出掛けてみるの、いかがでしょうか。洋服売り場には季節感たっぷりの服が、所狭しと並んでいます。御自分で気に入った服を選び、頭から爪先までワンセットコーディネートしてみれば、全身鏡に移る姿で季節を体感・確認出来ますし、お洒落も楽しめます。外部からの刺激を受け、衣服調整が出来、お洒落も楽しめれば、一番ベストな方法だと思えます。

更生園 生活援助員 石川理英

書籍紹介【2】



高次脳に関する書籍をシリーズ化で紹介していきます



小児の高次脳機能障害

著者 栗原まな(神奈川リハビリテーション病院)
発行年月日 2008年5月発行
出版社 診断と治療社
定価 5,040円(税込価格)

神奈川リハ栗原まな先生が5月に出版なさった『小児の高次脳機能障害』を読み、知らなかったことがありすぎて、今さらながらショックをうけております。けれども、親が至らぬからうまくいかなぬのではなく、よく知らなかったからなのだと思います。数々の症例は息子の障害名と異なるものの、具体的なリハビリ内容や経過など、大変参考になります。学校にも一冊買いました。おかげさまで息子のさまざまな特徴が理解について、先生方と気持ちよく理解し合えるようになっていきます。

先日、学校公開で疲れて泣き出し、先生に「3つの中から選んでね。早退する？保健室で横になる？3組(隣の空き教室)で少し休む？」と聞かれました。3組を選び、脳と身体が落ち着くと元気になり、午後の鍵盤ハーモニカを楽しく演奏することができました。幼くしての受傷だからこそ成長する脳、身体、こころに適切なリハビリ、システム、対応が必要です。栗原先生の取り組みが全国の教室に届いて欲しいと願っています。
中村千穂(ハイリハキッズ会員)

毎回、好評を得ている損保講習会です。申込締め切りまであとわずか!!お早めに!!

第5回 高次脳機能障害リハビリテーション講習会

参加費 無料

「高次脳機能障害の評価と支援のhandがかり」

～脳外傷者の社会的行動障害に焦点を当てながら～

講師 丸石 正治氏(まるいし まさはる)
広島県立障害者リハビリテーションセンター
高次脳機能センター長

厚生労働省「高次脳機能障害支援モデル事業支援」に広島県は2003年度から参画し、その中心として活動してこられたのが、丸石先生始め広島県の支援拠点機関である広島県立障害者リハビリテーションセンター(高次脳機能センター)である。丸石先生は、専らとして「高次脳機能障害」の「高次脳機能障害者」を支援して活動してこられた。

今年度の講習会として、日本損害保険協会2004年交通事故医療特約の課題として取り組まれた「高次脳機能障害に対するリハビリテーション評価法の開発：ファンクショナルMRIと拡散テンソル画像を用いて」という膨大な研究成果の中から、その一部を語っていただく。

平成20年 12/14 (日) 13:00-16:00

千葉市民会館小ホール
〒280-0017 千葉市中央区要町1-1

【参加対象者】
医療関係者・福祉・行政・当事者及びその家族

会場のご案内

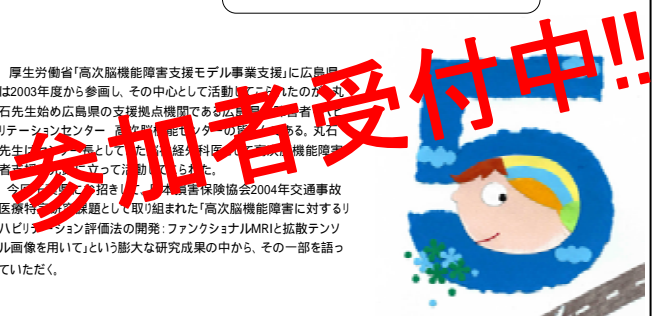
会場までのアクセス
JR千葉駅東口より徒歩7分
JR東千葉駅より徒歩5分

【注意事項】
本館には駐車場がございません。
お車でご来場の際は、近隣の有料駐車場をご利用下さい。

主催：千葉県千葉リハビリテーションセンター
問い合わせ・申し込み先
〒266-0005 千葉県千葉市緑区普田町1丁目4番2
千葉県千葉リハビリテーションセンター地域連携部
043-291-1831 FAX043-291-1847

日本損害保険協会 SONPO The Japanese Association of Insurers

この講習会は日本損害保険協会の助成を受けて実施しています。



インフォメーション・おしらせ

information

**平成 20 年度高次脳機能障害講演会
高次脳機能障害を考える
～地域で支えるしくみ～**

日時 2008年11月29日(土) 13:30-16:00
 会場 沼南公民館 大ホール(柏市大島田440-1)
 参加費 無料
 内容 講演 「高次脳機能障害支援普及事業を通して」国立障害者リハビリテーションセンター-中島八十一氏 講演 「地域支援の立場から」千葉リハビリテーションセンター-太田令子氏
 問合せ 柏市身体障害者福祉センター
 Tel・fax04-7163-9353

**高次脳機能障害 講演会
千葉県高次脳機能障害家族会連絡会主催**

日時 2009年1月31日(土) 10:00～15:00
 会場 障害者職業総合センター2F 講堂
 〒261-0014 千葉市美浜区若葉 3-1-3(JR 京葉線 海浜幕張駅北口 徒歩 15 分) Tel 043-297-9000
 内容 講演「高次脳機能障害と家族のケア」首都大学東京大学院 教授 渡邊修先生
 参加費 無料
 主催 千葉県高次脳機能障害家族会連絡会
 問合せ ちば高次脳機能障害と家族の会 角田 Tel 090-4249-3815

**協働事業報告会
高次脳機能障害者の社会参加
“ボランティアはじめの一歩”**

日時 2009年2月22日(日)13:30～16:30
 会場 ホテルプラザ菜の花 Tel043-222-8271
 〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-8-1
 内容 未定
 問合せ 生活クラブ・ボランティア活動情報センターVAIC Tel/Fax 043-440-0181

**第 6 回高次脳機能障害交流会
千葉リハビリテーションセンター主催**

日時 2009年3月14日(土)13:00～16:00
 会場 千葉リハビリテーションセンター-大ホール
 〒266-0005 千葉市緑区誉田町 1-45-2
 内容 未定
 問合せ 千葉県千葉リハビリテーションセンター-地域連携部 Tel 043-291-1831(代)内 177

こ～じのう掲示板ではご意見、ご感想、情報をお待ちしております！お送り頂いたものは掲示板に役立てていきたいと思っております。
 宛先メールアドレス kouji@chiba-reha.jp



「アクティブレスト(積極的休養)・・・ストレッチやウォーキング等の軽い運動を行うことによって、血行をよくして疲労物質を排出し、疲労回復を図るというもの。ご存知の方も多いかも知れませんが、先日の盛岡の脳外傷友の会の全国大会で東京慈恵医科大学付属病院の橋本圭司先生の講演のなかで取上げられておりました。私はつきりスポーツ界のことであって日常生活に置き換えることには思いつきもしなかったのですが、普段の生活でも体を動かす機会を作ったほうが心も身体も休まるようです。皆さんも試してみたいかがでしょうか？とはいえ、身体を動かすことって意識してもなかなかできないですね。(M)

身体を積極的に動かすのはなかなかできなくとも、身体を温める方法は積極的にできる。今年の紅葉はみごとらしいとひっきりなしにTVで放映しているのを見て、初めて日光のいろは坂に温泉旅行を兼ねて行ってきた。平日なのに、スイスイといろは坂を上り始め気分も風景も紅葉最前線！と・・・思っただけ分。紅葉の間隔から見るとは色とりどりの車の列。のろのろと上りきった中禅寺湖までは2時間程。華厳の滝、戦場ヶ原は休日の表参道状態。もっとも混む時期は4時間もかかるらしい。話の話題に一度行ってみたいかがでしょうか。で、日光の紅葉は綺麗？うん・・・千葉リハの前庭にある柿の木は紅葉が一番きれいだった笑。関東はこれから紅葉の時期です。紅葉とウォーキングでリフレッシュしましょう(Y)